OMCNews 大阪ムービーサークル

OMC事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/

平成１５年７月（2003年）No. ４５１

第４３回ＯＭＣ映像フェスティバル

１０月４日（第１土曜）に決まる

ＯＭＣ最大の行事である公開映写会は、このほど阿倍野市民学習センターでの会場申込み抽選会で、くじ運もまずまずでしたので、１０月４日の第１土曜日が確保されました。翌５日の日曜日にしたかったのですが、くじ順の１番目の人に押えられたので希望通りとはいきませんでした。が他クラブの例会や発表会に重ならない日と思われますので、今後はこの１０月４日を目標に準備を進めてまいります。

早速、上映作品を決めてプログラム編成にかからなければなりませんので、７月例会前の世話役会であらかじめ候補作を選び、７月例会出品作品を見て、その上で作者と話し合って決定します。

今年も良い作品を集めて、さすがに伝統のＯＭＣ発表会だけある、と評価されるような立派な映像フェスティバルにしたいものです。人の意見や助言も聞き入れて、少しでも良い作品へと目指してご努力して頂くことを期待しております。

日野撮影会作品コンテスト

藤原氏がまたも最優秀賞に輝く

６月例会で出品者以外の例会出席者による公開審査の結果、日野祭をよく描かれた藤原氏が最優秀賞に選ばれました。小豆島撮影会作品に引き続いての連続最優秀賞となりました。おめでとうございます。

７月例会のお知らせ

７月例会は、第４土曜２６日18時より、梅田の大阪駅前第２ビル５階、大阪市立総合学習センターにて開催します。秋の公開映写会作品候補は７月例会作品の中から選定しますので、出品希望者は必ず完成作品でなくてもよいですから作品をお持ちください。
月１回の楽しい例会です。皆様のお越しをお待ちしています。

■日野撮影会コンテスト結果発表

６月例会で行われた日野撮影会コンテストは次のように入賞者が決まりました。なお、審査は出品者以外の例会出席者によって、１位３点、２位２点、３位１点の配点で行われました。また出品者には持点として３点があらかじめ配点され、０点の人が出ないよう気配りされました。

◎最優秀賞：藤原純三氏　「日野祭」
優秀賞：合原一夫氏　「日野祭のころ」
秀作賞：前田茂夫氏　「日野祭り」
佳　作：安居利次氏　「日野商人の遺産」

５位以下はすべて努力賞とし出品者全員に記念品としてDVテープが贈られました。

■故・良枝さんの後任に宮崎紀代子さん

例会で受付兼照明係としてご活躍頂いていました良枝さんの後任として宮崎さんにお願いしましたところ快く引き受けて頂きました。よろしくお願いいたします。

■安居さんより５万円の寄贈

故・良枝さんが生前ＯＭＣに大変お世話になり、また楽しませて頂いたこと、並びに会や大勢の方から葬儀の際、花を飾ってお見送りしていただいたお礼にと、このほど会へ５万円の寄贈をしていただきました。謹んで厚く御礼申し上げます。

■スピーカーを購入しました

例会場で使っていたセンター備品の音質が悪いと指摘に応えるべく、新しくローランドのスピーカー１組を購入しました。

６月例会レポート

梅雨の例会日で集まりが懸念されましたが、見学者３名を加えて総勢 27 名でいつものように盛会でした。開会に先立ち故・良枝さんに対して黙祷が捧げられました。

今月は主に日野撮影会作品公開審査日、いずれ劣らぬ力作揃いで審査も熱気がこもりましたが、別項の通りの結果、藤原氏が最優秀賞に輝きました。引き続き一般作品３本を上映し、9 時少し回ったところで二次会場へと席を移しました。今月の司会は有村氏、書記、安居氏、デッキ係は江村氏と河合氏、受付兼照明係として良枝さんに代わって宮崎さんと奥氏の担当で例会を進めました。

■出席者：有村、今井、江藤、江村、奥、河合、合原、関、那須、西村、中尾、華岡、藤原、松本、宮崎、前田、増池、森下、森、森田、安居、吉岡、渡辺、山本、その他見学者３名、計２７氏（敬称略）

■日野撮影会作品上映

（今月の講評は安居世話役です）

１．日野祭り　前田茂夫さん　　12分58秒

全作品の中で一番克明に日野祭りをわかりやすく描いておられます。時系列で描きながらあきさせない構成はさすがだと思いました。インタビューも適当で画面を引き締めるのに役だっていました。少し気になったのは、絵とスーパー「ばんばら竹」を入れてから、後で「なんという竹ですか」という質問はスーパーがなかったらもっと活きてきたのではないでしょうか、そんな小さいことはさておいて、板塀がつづく小道の向こうに曳山が通るカットは秀逸でした。それから日野祭りのルーツが秩父にあったことは知りませんでした。

２．日野祭　　江村一郎さん　　7分40秒

江村流のアット驚くカットが随所にあります。それを「よさこい」のように活かせなかったのは日野祭りにテンポがなかったからでしょうか。江村流のアップカットはドキッとするほどの表情豊かな顔なのですがそれが残念ながら観客なのです。神輿を担ぐ人のアップと交互になればきっとすごい作品になったと思います。多分締め切り間際で大急ぎで作られたからではないでしょうか。すみません、きついことをいって。

３．日野曳山祭り　森保信さん　10分27秒

正確なカットの連続に感心しました。水平も構図も完璧です。あの雑踏の中落ち着いて三脚を構えて撮るということは心理的にも私など到底できそうにありません。やはり長いキャリアが自然のうちに体にしみこんでいるのでしょう。宵宮や本祭りなど時系列にお撮りになっています。ターンはほとんどなくズームもたま、ほとんどがフィックスのきちんとしたカットです。教科書的な撮り方の作品ですが、それが逆に平凡と言うことで損をしたかもしれません。

４．日野祭りのころ

合原一夫さん　　14分41秒

失礼ながら一カット一カットの撮り方はそんなにうまくないのに全体としてみるとひきつけられるものがあるのが、合原作品です。脚本構成の中に見る人の心理を読んでおられるからでしょうか、人口２万３千の町でどうしてこれだけの大規模な祭りを運営できるのか世話役の人のインタビューで現実の苦労をわかるようにしたり、臨場感のあるカットのつなぎでナレ以上の効果を出したり確かに退屈感を与えない構成です。しかも最後は私達にはなかったカットで盛り上げられました。構成の合原さんというだけのことはあると実感しました。

５．日野商人の遺産

安居利次さん　　8分30秒

みんなの作品は祭りが主になるだろうと思い祭りの豪華な曳山を残した日野商人のことを中心に描いて見ましたが、力不足でだめでした。特に千両店のネットワークが商社や情報戦の先取りという表現方法が未熟でイメージブックの絵が浮いてしまいました。少しナレが早口だったのも失敗でした。いつもなら亡き家内のチエックが入るのですが、それがなくなるので、よほどしっかりせんとアカンなと思った次第です。

６．祭りバンザイ

河合源七郎さん　　4分52秒

宵宮だけに限定して構成されたことがよかったと思います。タイトルの意味が曳山にのっている人も観客も一緒になってバンザイを叫んでいるのでうまくまとまっていると思いました。ことに地元の人でしょうか、囃子に合わせて曳山に向かって体全体で答えている踊りの表情がなんともいえません。（ただ２回は少しいただけませんが・・・）それと最後のシーンはバンザイで終わったほうがよかったんじゃないかと思います。しかし宵宮の札が辻の画面だけでまとめる着想と勇気はすごいなと感心しました。

７．小さい町の大きなお祭り

松本　昭さん　　9分08秒

全体にまじめに撮っておられます。資料館のカットの中で私達が知らなかったカット、たとえば日野商人の３人の絵などはどこで仕入れられたのでしょうか。みんな同じカットを使っているので、違うカットがあると目をひきます。松本さんは例会ではあまり出品されないのですがこうして拝見するとノンリニア編集も完全に会得されています。数を作られると編集の細かいカットつなぎミスも自然になくなるのではないでしょうか。これからが期待されます。

８．やレヤれ・・・・・

関　剛さん　　10分

関さんらしいカットが豊富にありました。どアップもすごいです。ことに本宮前の石橋をわたるところの足のアップは「やれやれ」という音声とあいまってわれわれ凡人には到底作れないシーンです。「やレヤれ…・」のタイトルですがなぜカタカナとひらがなの混合なのか関さんに直接聞くのを忘れたのでいまだに理解していないのですが・・・・ただえらそうなことをあえて言わしてもらえば、このタイトルのために本来の関さんの独特な構成が逆に制約されてしまっているように思えてならないのですが・・・すみません。

９．日野祭　　藤原純三さん　　9分25秒

投票結果ダントツの 27 票の値打ちは充分過ぎるくらいありました。再度みて批評を書きながら納得しました。娘さんのナレが効いていることはもちろんですが、ナレの脚本とカットのつなぎも完全だからこそその効果が現れてくるのだと思います。時系列に日野祭りを並べただけだと本人は謙遜して言われていましたが、内容は神子の由縁などしっかり調べられて、それもみている人に興味があるように構成されているのはさすがです。こういう祭りものは、私（安居）のようにひねくるより、素直にその代わりあきさせないカット構成でまとめてゆくべきだと改めて思ったすばらしい作品でした。

10．日野祭　　有村　博さん　　10分

ベテランが撮られただけあって息を呑むカットがたくさんありました。桟敷窓から見ている人の前を曳山が通るカット、見ている人の視線が曳山を追うところなど秀逸でした。現地で買われたＣＤのＢＧＭと現地音がほとんどわからないように使われて

いるのもさすがです。「初めてみた日野祭りの印象をつづって見ました」と映像だけで表現されています。見事な表現なのですが、惜しむらくは、順番が藤原さんの後と言うことでかなり損をしておられると思います。率直な意見です。

11. 日野町春祭　森田光春さん　9分15秒

３泊されただけあって一泊２日では撮れない貴重なカットが随所に見られます。またカメラ位置も高いところに陣取られて粘られた結果、すごいカットをお撮りになっています。しかし全体としてみると少し物足りなさを感じてしまうのです。原因はどうやらすばらしいカットもストーリー性に気を使っておられないところではないでしょうか、たとえばギンギリ回しにしても神輿を持ち上げるところはあっても肝心の回すメカの部分がないので、その部分のカットつなぎの意味が表現されていないように思われるのです。それと現地音を含めた音楽にもう少し気を使っていただきたい。いいカットをお撮りになるすごい能力をお持ちになるのですから、惜しいと思います。感じたことをそのまま言ってすみません。

■一般作品上映（短評：安居世話役）

1．信仰に生きる

西村　光雄さん　11分15秒

このタイトルで内容をうまく表現することは普通至難の業です。ヒンズー教とチベット仏教が同居しているネパールで人の生活を通じてその違いをうまく表現されています。数字を出しながら理に走らずそのくせ仏教僧にずばり質問、このあたりの構成がすばらしいです。日本の神仏習合の考え方と似ているなと思いました。やはり根は多神教の東洋人。でもいけにえをささげる習慣は西方から進入したアーリア人の性が出ているのでしょうか。

残酷なシーンもうまく表現されています。司会の有村さんが言われていた「何もいうとこないのとちがう」難しいテーマを飽きさせず上手に描いておられると感心しました。文句言うところ何もありません。

2．御陣乗太鼓

今井　羨美さん　3分11秒

有名な御陣乗太鼓、会館内での演奏をＰＣを使って海岸のシーンとオーバーラップさせることで緊迫な雰囲気がでています、昔上杉謙信が攻めてきたとき、奇面をかぶって、太鼓を打ち鳴らし追っ払ったというイワレがありますが、奇面のアップと打ち鳴らす太鼓のバチをみていますと「さもありなん」と思えてきました。迫力のある短編でよかったと思います。

3．石渠（セルシュ）の人々

山本　正夢さん　7分27秒

山本さんには海外の主にチベットあたりの本当に珍しい人々の生活をよく見せていただいています。ありきたりのツアーでは撮れない現地に入り込んだ映像です。今回も後半のＢＧＭと相まったチベットの自然と家屋の新旧の入り混じったシーンを見せてもらう事によってここでも時代の波が一部の制約があるにもかかわらず進行しているのがよみとれました。正確なカットとうまい編集力をお持ちの山本さんにお願いがあります。山本さんの考えを入れた作品に仕上げてもらいたいのです。多分西村さんのようにすばらしい作品ができあがると思うのですが・・・・・。

良枝さんへの追悼文

◆良枝さんを偲ぶ

関　剛

いつだったか靭公園の"花と彫刻展"を作品研究会のテーマに、ミニ撮影会を行なったことがある。良枝さんがつくったのは"秋のうつぼ公園"というナレーション付きの、すこぶる客観的な映像だった。このとき私が撮ったアップ主体の"オブジェ"が彼女にはかなりショックだったらしい。「おんなじものやのに撮り方、編集、音楽でこんなに違うものかと、いい勉強になりました。もう一回挑戦してみます」。その言葉どおり撮り直しに行ったと聞いて正直驚いた。その改作"秋の公園"は、まず最初に音楽を決め、彫刻と対面しながら、曲を心のなかにイメージして撮ったと言う。そしてそれが前作とはまるで別人のような作品に

生まれ変わっていたのを見て二度びっくり。

ＯＭＣもＯＶＣも、例会のあとで喫茶店に入ると良枝さんはきまって私の前の席につく。そしていつも訊ねてきた「今日のわたしの作品、どう思いはりました？」と。

撮影対象を自らが納得するまでとことん追求する行動派タイプでありながら他人の意見を真摯に受け入れ、ものの見事に改造する柔軟さも併せ持つ。その研究心は誰より旺盛だった。

ＯＭＣに入会した当初の良枝さんはポエムを専攻していたと思う。ところがある日「この分野は関さんが居てはるから絶対に追いつかれへン。わたし…こんどから作品の方向を変えますワ…」と宣言した。

私はそのとき、日頃からご主人、利次さんの作風とは一線を画すと言っていた勝気な側面を垣間見たような気がした。

それからの良枝さんは、一般ではあまりとりあげない家庭や身の回りの日常的な出来事に目線を移して"妹夫婦のお引越し""夫の食事""被災犬フラン"などの秀作を生みだし、独自の境地を拓いていった。各地のコンテストに応募して高い評価を得ても、それに驕ることなく謙虚な姿勢は変らなかった。

「とうとう関西では、押しも押されぬ女性作家のトップになりはったね」の問いかけに「そんなことありませんわ…、私なんかまだまだ…」と恥じらいながら見せたさわやかな笑顔がいまも印象に残っている。

もともと心臓が悪く普通なら絶対安静のはずだが、細身ながら傍目には健康な人と何ら見分けがつかない。趣味のビデオが精神的にも病に打ち勝っている様子だった。

しかし避けられない手術の時期が間近に迫っていたのだ。

いつもの喫茶店を出て駅までの道すがら利次さんにそれとなく聞いてみた。

「手術…、あの身体でだいじょうぶなんですか？」「じつは心配なんですわ…、担当医の話では成功率５０パーセント。そやけど本人はその５０パーセントに賭ける言うてますねン」「へーェ、気丈やなア。そやけどやっぱり心配やねエ」。

うしろを振り返ると、作品のことだろうか、歩きながら身振り手振りで誰かと談笑している良枝さんの姿があった。ご主人の心配をよそに、あっけらかんとした表情には手術の不安など微塵も感じなかった。

それから２ヵ月、彼女はなんのことわりも告げずに逝ってしまった。私の心の中にさわやかな恥じらいの笑顔をのこして。

◆安居良枝さんを悼む

河合源七郎

何にも知らずに、5 月末から十数日東北地方の山々や海岸線を、野生のばらを求めて駆け回っていました。帰ってみると、OMCNews 6 月号が届いていて、「良枝さん逝去」の報が目に飛び込んできました。5 月の例会の時ご入院と伺いましかが、単なる検査入院だと思っていました。

まさか、まさか、の想いで一杯でした。OMC に入れていただいて、間もなくのことだったと思います。「都会のオアシス」を見せていただいて、何とも言えない感銘を受けたのを覚えています。そこには、日頃何の気なしに見過ごしている街の平凡な風景が、おや! と思わす独自なアングルで映し出され、淡々と「良枝哲学」が語られていました。こんなビデオの世界もあるんだ、と目から鱗がおちた思いでした。

この流れの中から、素晴らしい作品を次々と見せていただきました。「妹夫婦のお引越し」、「夕焼け」、そして「被災犬フラン」などです。私がなんとかして入り込みたいと思った世界、しかしどうしても入り込めない世界でした。それだけに、良枝さんの感性は羨ましい限りでした。

旅から帰って、すぐに弔問に伺いました。そして、ご主人の利次さんと思い出話を語るなかで、初期の作品を幾つか見せて頂きました。その中でも「Making of Makeup 」には吃驚りしました。うかがえばビデオをはじめられて 3 年目くらいの時の作品だと。

「良枝の世界」の原点はここにあったのだ、そしてビデオを始められて、ずっと一筋に自分の道をつき詰められて天国に行か

れたのだ、と目頭が熱くなるのを抑え切れませんでした。

まだまだやりたかったことは多かったでしょうに。それでも私は、「良枝さんは自分の道を究められて、旅立って行かれたのだ」と思わずにはおられませんでした。
どうか、安らかにお眠り下さい。　合掌

◆天国のビデオコンテストに入賞してください　　渡邊雄史

まず初めに、安居良枝さんのご冥福をお祈り申し上げます。私が良枝さんに巡りあったのは、勿論ＯＭＣでありまして、仲の良いご夫婦で、同じ趣味を持ち、何時もご一緒に撮影に行かれて居られた様子で、お二人の作品には随所にお互いのカットが見られました。しかし作品の作風は全く異なり、表現力の女性らしい緻密さ、優しさ等、私達にとって大いに勉強になり、毎回お持ちになられた映像をどれだけ楽しみにしていたか、今となれば残念です。

美人薄命、才子短命と云われますが、良枝さんのお若い頃は存じませんが、さぞ地域で評判の美人であったことと想像します。又映像を通じてでも、知的感覚の素晴らしい方とお察しし、映像以外の分野でも博識であられた事と推察します。

まさに美人薄命、才子短命と云われるその言葉が良枝さんの事の様に思われます。もう少し私達と映像を通してのお付き合いをしていただき、色々とお教え頂きたく思っていましたのに心残りです。
恐らくあとに残られたご主人が、良枝さんの生涯を事細かく表現された作品を作られる事でしょうし、拝見させて頂き昔日の良枝さんを偲びたいと存じます。

どうか天国でも素晴らしい作品を作って頂き、天国でのビデオコンテストに入賞して、何時までも映像の楽しさを味わっていて下さい。さようなら。

◆安居良枝さんを偲んで　　西村光雄

私が安居さんご夫妻と初めてお会いしたのは、たしか平成 10 年にご夫婦が所属して居られたビデオクラブに入会した時でした。良枝さんはとても熱心にクラブのお世話をされて居られて、社交的で明るい方だなと言うのが私の第一印象でした。

後で聞いた事では、この時期には１回目の心臓手術をされて、体調も下り坂でお疲れの毎日だった様ですが、全くそれを感じさせないように振舞って居られて、とても精神力の強い方なのだなと大変感じ入りました。　お宅にお邪魔した際にもこの頃には更に体調も芳しくなく、1 日の半分は休息に当てられて居られる状態だった様でしたが、お話にも加わられお昼もご馳走になり恐縮したのも今となっては懐かしい思い出です。ビデオの作品では良枝さんは身近なものを題材にされて、ユニークなアマチュアでないと出来ない作品を制作して居られました。身近なものを作品にするのは私の尤も不得意とする分野で、手法とかいろいろ勉強させて戴きました。

現代的な風俗に着目された作品も多く、「ヤンエグ通り」は特に印象に残っています。高名な飛騨高山のコンテストで審査員特別賞を受賞された「蘇れ法善寺横町」も良枝さんらしい視点で故郷を表現され、とても真似が出来ないなと感じました。こう言ったセンスは天性の部分が多く、そう言う意味でも大変素晴らしい感性に恵まれた方だったと思います。

訃報をお聞きした夜、安居さんのＨＰ（夫婦でビデオ）で「ささやきの小道」を見せて戴きましたが、良枝さんのナレーションが始まると熱いものがこみ上げて来てどうしだいたものも終わりまで見ることが出来ませんでした。お通夜、お葬式でお別れにお顔を見るのも辛い思いで一杯でした。個人的にも親しくして戴いていましたので、まだお亡くなりになったのが信じられない思いです。勉強させていただいたものも私のセンスが悪くて中々身について来ませんが、更に勉強してこの分野に挑戦するのも良枝さんへのご供養と考えて頑張って行きたいと思っています。

最後に生前のご交誼にお礼を申し上げると共に、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。いろいろ有難うございました。